

広報ふたば

双葉郡小学校長会
第110号
責任者 会長 堀本晋一郎
発行 校長 堀本晋一郎

双葉郡小学校長会あいさつ

ピンチをチャンスに



榎本 晋一郎
榎葉町立榎葉南・北小学校長

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から九年が経過した。その間、双葉郡内の八町村は避難先での学校経営、避難区域解除に伴う地元での学校再開、新設、そして今後は学校の閉校・休校・統合・義務教育学校又は小中一貫校への移行と大きな転換期を迎えている。

極端な児童数の減少と指導体制の確立等の課題が山積する中で教育機能の回復・充実のために学校・家庭・地域が連携を密にして全力で取り組んできた。現在は、新型コロナウイルス感染症対策のため、私達校長は「新しい生活様式」の実践に努め、子どもと教職員の命を守りながら学びの保障を継続すると

いうこれまで誰も経験したことのない課題に最適解を見出し、いく取組が求められている。あの震災と原発事故という未曾有の大災害を乗り越え、子どもたちの安心安全と教育を守り支えてきた双葉郡小学校長会の底力を今こそ発揮する時である。双葉郡内の児童総数はたった四百名と極少人数の学校が多く、大きな課題となっているが、逆にコロナ禍においてはICT環境が他地区に比べて圧倒的に整っており臨時休業中でもICTを活用してオンラインでの学習支援を実施した学校も少なくない。榎葉南北小学校でも幸いICT支援員が常駐しており教員と児童向けの研修会を行いな

がら、できる範囲でオンライン学習を実施してきた。初めての経験で最初は戸惑いもあったが先生方が必要に駆られて課題意識を持って意欲的に研修に参加しスキル向上を図った。また、オンラインを試行的に先行実施した教員の実践場面をほとんどの教員が参観し活発に教員同士が学び合う姿に頭が下がった。この経験を活かし、第2波、第3波に備えていく必要がある。アフターコロナの学校教育は大きく変容する可能性がある。今回のコロナのピンチを変革の大きなチャンスと捉え積極的に取り組んでいきたい。文部科学省GIGAスクール構想が前倒しで加速度的に進む。一人一台のタブレット環境や家庭の通信環境等オンライン授業で明らかになった課題を解決する絶好のチャンスである。七月十日の小中学校長連絡協議会研修会では、『未来の教室』について経済産業省と文部科学省の講話の中で実際にタブレット体験も予定されており楽しみである。

コロナが教育を変える大きなチャンスと捉え双葉の子どもの手を双葉郡小学校長会全員の手で育てるといふ共通の思いでAI時代を力強く生き抜く子どもたちを育てていきたいと思います。

双葉郡小学校長会
令和二年度組織

小学校教育研究会等
双葉地区会組織

- 会長 堀本 晋一郎 (榎葉南小)
- 副会長 阿部 裕美 (熊町小)
- 総務 井戸川 浩 (広野小)
- 経理 木村 裕之 (津島小)
- 監事 伊藤 恒明 (葛尾小)
青田 祥一 (川内小)
- 行財政部 高田 英世 (なみえ創成小)
堀本晋一郎 (榎葉南小)
阿部 裕美 (熊町小)
- 研究部 伊藤 恒明 (葛尾小)
高田 英世 (なみえ創成小)
青田 祥一 (川内小)
- 生徒指導部 他 全員所属
- ◎青田 祥一 (川内小)
- ◎木村 裕之 (津島小)
- ◎松本美穂子 (双葉北小)
- ◎井戸川 浩 (広野小)

- 会長 阿部 裕美 (熊町小)
- 副会長 青田 祥一 (川内小)
- 監事 井戸川 浩 (広野小)
- 事務局長 木村 裕之 (浪江小)
- 会計 高田 英世 (なみえ創成小)
- 【専門部長】
国語 松本美穂子 (双葉北小)
社会 木村 裕之 (津島小)
算数 堀本晋一郎 (榎葉南小)
理科 高田 英世 (なみえ創成小)
生総 伊藤 恒明 (葛尾小)
音楽 設楽 芳浩 (富岡二小)
図工 青田 祥一 (川内小)
家庭 高野 道子 (なみえ創成小教頭)
体育 佐藤 大志 (双葉南小教頭)
道徳 井戸川 浩 (広野小)



また、在籍児童の急激な減少や不安定な生活環境に伴う児童の心のケア、未だに組織することができないPTAなど、震災によって生じた学校課題も、未だ続いている現状があります。双葉郡小学校長会では、そんな現状を多くの方々に伝えていくとともに、児童一人一人が将来への夢と希望を持ち、地域の復興に向けた参画者となるような様々な取組を行っています。

また、在籍児童の急激な減少や不安定な生活環境に伴う児童の心のケア、未だに組織することができないPTAなど、震災によって生じた学校課題も、未だ続いている現状があります。双葉郡小学校長会では、そんな現状を多くの方々に伝えていくとともに、児童一人一人が将来への夢と希望を持ち、地域の復興に向けた参画者となるような様々な取組を行っています。

また、在籍児童の急激な減少や不安定な生活環境に伴う児童の心のケア、未だに組織することができないPTAなど、震災によって生じた学校課題も、未だ続いている現状があります。双葉郡小学校長会では、そんな現状を多くの方々に伝えていくとともに、児童一人一人が将来への夢と希望を持ち、地域の復興に向けた参画者となるような様々な取組を行っています。

東日本大震災と原子力発電所事故から十年目を迎える年となりました。三月には、不通となっていたJR常磐線の富岡―浪江間(二十・八キロ)で、九年ぶりに運行が再開されました。東京電力福島第一原発事故の影響を受けた福島県沿岸部が鉄道で結ばれ、地元は復興の加速に期待を寄せています。

双葉郡の小学校「現状」

◎新設・地元再開校 ○避難再開校 ◇休校

【大熊町】

- ◎熊町小学校 児童数6名
- ◎大野小学校 児童数3名
- ※計9名
- 2校合同での学校生活
- [平成23年4月 会津若松市立旧河東三小校舎で再開]



【浪江町】

- 津島小学校 児童数1名

令和2年3月31日休校

- ◇浪江小学校 [平成23年8月/平成26年4月 二本松市立旧下川崎小校舎で再開]



- ◎なみえ創成小学校 児童数21名



[平成30年4月 旧浪江東中学校舎に新設]

- 平成31年3月31日休校
- ◇幾世橋小学校 ◇請戸小学校
- ◇大堀小学校 ◇荻野小学校

【葛尾村】

- ◎葛尾小学校 児童数8名



[平成30年4月 元の校舎で再開]



【楡葉町】

- ◎楡葉南小学校 児童数48名
- ◎楡葉北小学校 児童数50名
- ※計98名
- 2校合同での学校生活
- [平成29年4月 楡葉中校舎で再開]



【広野町】

- ◎広野小学校 児童数154名
- [平成24年8月 元の校舎で再開]



【富岡町】

- ◎富岡第一小学校(富岡校) 児童数14名
- ◎富岡第二小学校(富岡校) 児童数10名
- ※計24名
- 2校合同での学校生活
- 富岡第一小学校(三春校) 児童数7名
- 富岡第二小学校(三春校) 児童数4名
- ※計11名
- 2校合同での学校生活
- [平成23年9月 三春町曙ブレーキ工場社屋跡で再開]



[平成30年4月 富岡一中校舎で再開]



[平成23年9月 三春町曙ブレーキ工場社屋跡で再開]

【川内村】

- ◎川内小学校 児童数44名
- [平成24年4月 元の校舎で再開]



【双葉町】

- 双葉南小学校 児童数15名
- 双葉北小学校 児童数15名
- ※計30名
- 2校合同での学校生活
- [平成26年4月 いわき市錦町の仮校舎で再開]



(令和2年5月1日現在)

二編集後記二

多くの希望をのせて幕を開けた令和の時代。元年度末から新型コロナウイルスで臨時休業を余儀なくされてしまいました。今年度も四月半ばから長期の臨時休業。そして、数々の行事の中止。先の見えないコロナとの戦いですが、必ず、令和の元号に込められた美しい花を咲かせることができると思います。

広報「ふたば」も多くの方の助けにより発行することができました。ご寄稿いただきました皆様には、心より感謝申し上げます。

双葉郡の児童数の推移 (単位:人)

町村名	浪江町										葛尾	双葉町		大熊町		富岡町		川内	楡葉町		広野	合計
小学校名	浪江	幾世橋	請戸	大堀	荻野	津島	創成	葛尾	双葉南	双葉北	熊町	大野	富岡一	富岡二	川内	楡葉南	楡葉北	広野				
2010.4.1 震災前	558	122	93	157	174	58		68	192	152	333	423	415	521	112	158	274	311			4121	
2011.8.31 震災直後	30	臨時休業	臨時休業	臨時休業	臨時休業	0		0	0	0	149	222	19	26	53	0	0	65			564	
2020.4.1 現在	休校	休校	休校	休校	休校	1	21	8	15	15	6	3	21	14	44	48	50	154			400	